

NX7700x/A6010E-2 ご使用時の注意事項

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

本製品のご使用において、ご注意いただくことがあります。誠に您所れ入りますが、ご使用前に下記内容を必ずご一読ください。

なお、本書は必要なときにすぐに参照できるよう大切に保管してください。

- 1) はじめに
- 2) システムROMの機能に関する注意事項
- 3) iLO 5の機能に関する注意事項
- 4) OSに関する注意事項
- 5) 全般の機能に関わる注意事項

1) はじめに

● 本製品のマニュアルについて

本製品に関する詳細は、以下の Web サイトに掲載しているマニュアルに記載しています。

ご購入頂いた型番で、製品マニュアルをご検索ください。

<https://jpn.nec.com/nx7700x/>

また、ESMPRO/ServerManager、ESMPRO/ServerAgentService、エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス (HTTPS)/エクスプレス通報サービス (MG) に関しては、

ESMPRO 日本語ポータルサイト<<https://jpn.nec.com/esmsm/>>

NEC サポートポータル<<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010102124>>

の最新の情報およびバージョンをご確認のうえ、ご利用ください。

● Starter Packについて

本製品で使用する Starter Pack は、以下の Web サイトに最新版が掲載されています。

本体装置購入時に合わせて購入されていない場合はダウンロードして適用してください。

<https://jpn.nec.com/nx7700x/>

([技術サポート情報・ダウンロード] - [ドライバー、ユーティリティ関連の物件] のページの StarterPack の項を参照)

なお、使用する StarterPack については、別途 Web 公開している「OS と Starter Pack の対応」を参照ください。

<https://jpn.nec.com/nx7700x/support/index.html?>

対象装置のマニュアルを参照願います。

● VMware ESXiのドライバ・サービスモジュールについて

本製品で使用する VMware ESXi のドライバ・サービスモジュールは、以下の Web サイトに最新版が掲載されています。Web サイトに掲載されている内容を確認し、適切なバージョンを適用してください。

1. Agentless Management Service および iLO Channel Interface Driver

<https://jpn.nec.com/nx7700x/>

([技術サポート情報・ダウンロード] - [ドライバー、ユーティリティ関連の物件] のページの ユーティリティの項を参照)

2. SNMP Trap および CLI ツール

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=3010101744>

(「エンタープライズサーバ (NX7700x シリーズ)」を参照)

3. VMware ESXi デバイスドライバ

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=3140105866>

(「エンタープライズサーバ (NX7700x シリーズ)」から対象 OS の「デバイスドライバー一覧」を選択)

2) システムROMの機能に関する注意事項

●システムデフォルトオプション使用時の注意事項

システム設定をデフォルト値に戻す場合は、「Restore Default System Setting」を使用してください。

「Restore Default Manufacturing Settings」メニューを使用した場合、BIOS/Platform Configuration (RBSU)の設定がデフォルト値に戻るだけでなく、実装されているPCIカード (RAIDコントローラのアレイ構成情報や、ネットワークカードのiSCSI設定情報) もデフォルト値に戻ります。

そのため、RAIDコントローラのアレイ構成にOSをインストールされていた場合、アレイの再構築後OSの再インストールが必要となります。

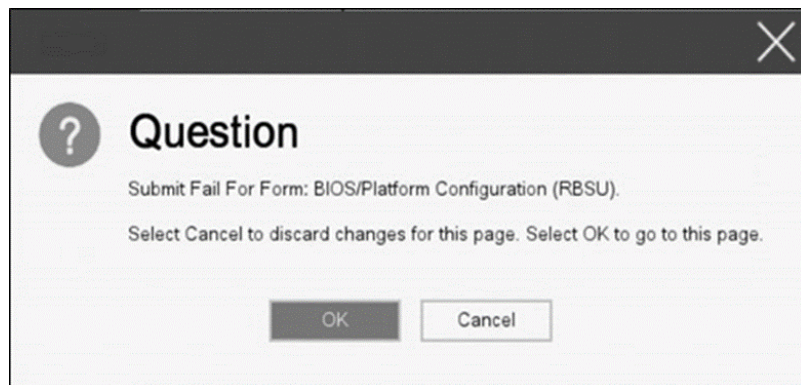
Restore Default System Settings (推奨)

Restore Default Manufacturing Settings (PCIカード含めてデフォルト値に戻す場合のみ)

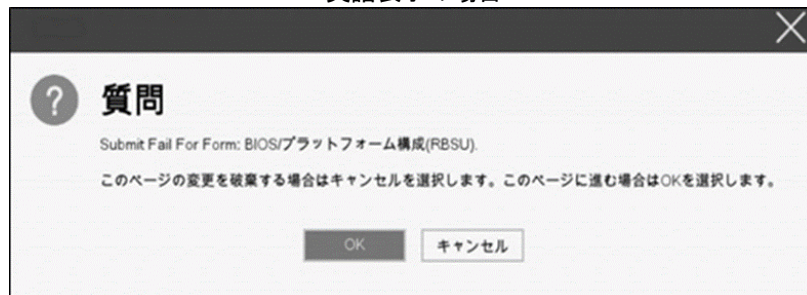
● Submit Fail For FormのQuestion(質問)ポップアップ表示についての注意事項

システムユーティリティにおいて設定の変更中に、次のSubmit Fail For FormのQuestion(質問)ポップアップが表示された場合は、「キャンセル」を選択して変更を破棄してください。

さらに、サーバーの再起動を行ってシステムユーティリティに入りなおしてから設定の変更を再度行ってください。もし「OK」を押してそのまま設定変更を進めると、装置に記録されているSerial Number、Product IDなどの設定情報を消失することがあります。



英語表示の場合

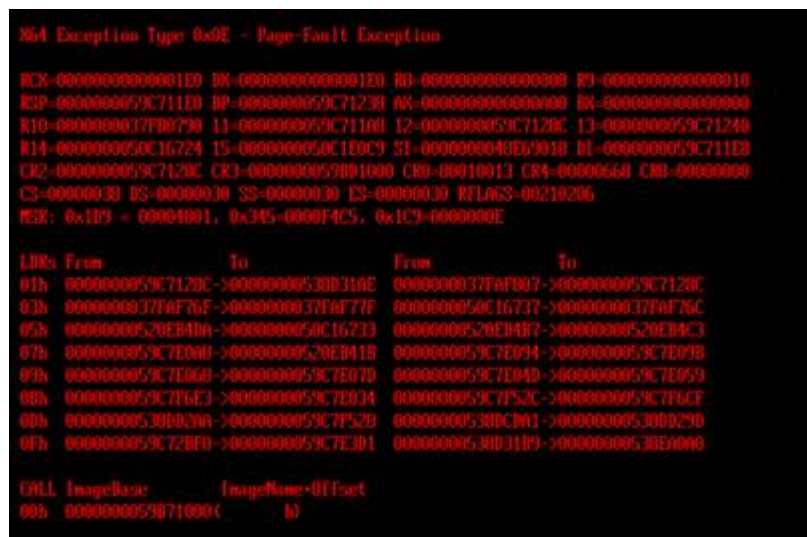


日本語表示の場合

● 赤文字画面 (RSOD : Red Screen of Death) が表示された場合の対処について

装置の構成変更や設定変更などシステムの状態を変更した場合や、接続デバイスへのアクセスタイミングにより、OS起動前に稀に赤文字画面 (RSOD) が表示され、本製品の操作が出来なくなることがあります。構成変更や設定変更に伴う一過性の事象の場合があり電源OFF/ONによって回復します。

赤文字画面 (RSOD) が表示された場合、装置の電源OFF/ONをお願いします。
問題が解決しないときは、保守サービス会社にお問い合わせください。



赤文字画面の例

● 「Memory Initialization Start」のメッセージでPOST停止した場合の対処について

「Memory Initialization Start」のメッセージでPOST 停止した場合、システムメンテナンススイッチの SW6 によりシステム設定をデフォルト値に戻すことで復旧することができます。

詳細な手順は、メンテナンスガイド(運用編)「1 章(7. 4. 3 システム設定をデフォルト値に戻す)」の項をご参照ください。

● Server Configuration Lock (SCL) についての注意事項

- (1) システム運用中は SCL 機能を無効にし、使用しないでください。
- (2) SCL 機能有効時に設定するパスワードは大切に保管してください。SCL のパスワードを紛失した状態で、SCL 機能によりロック (OS ブート前に停止) されると、ロック解除できず、二度とブートできなくなります。

ブート可能状態への復旧/回復は有償にて承ることになります。

なお、SCL のパスワードを紛失した場合、SCL のパスワードをクリアする方法はありません。

- (3) 保守を依頼する際は、SCL 機能を無効化していただく必要があります。
SCL 機能を無効にできない場合、**保守は有償にて承ることになります。**
- (4) RBSU の「Halt on Server Configuration Lock failure detection.」機能は有効化しないでください。もし有効に設定した場合、SCL 機能が回復不能条件の該当を検出し、ロック (OS ブート前に停止) されてしまうと、システムユーティリティも起動できず、二度とサーバー構成ロックを無効にすることができません。

ブート可能状態への復旧/回復は有償にて承ることになります。

SCL 機能の回復不能条件

- RBSU の設定変更によりロックされた場合
- ファームウェア更新によりロックされ、元のファームウェア バージョンに戻すことができない場合
- DIMM、または PCI オプションカードの故障によりロックされた場合

● システムユーティリティおよびワнтаイムブートメニューの表示について

RAIDコントローラ (NE3303-190/191/197/201/237/238) 搭載装置において、以下の発生条件を満たす場合、ワнтаイムブートメニューとRBSU のPCIe Device Configuration メニュー(*)に、RAID コントローラ名が正しく表示されないことがあります。RAID コントローラ名表示のみの問題であり、RAID コントローラに搭載されているHDD/SSD からのブートには影響しません。

(*)BIOS/Platform configuration (RBSU) > PCIe Device Configuration

【発生条件】 ※以下 2 つの条件をすべて満たす場合

1. RAID コントローラファームウェアが以下のバージョンである
 - NE3303-190/191/197/201 : v4. 11 以上
 - NE3303-237/238 : v3. 01. 04. 072 以上
2. システム ROM が v1. 64 (08/11/2022) 未満

● TPM Visibilityのヘルプについての注意事項

「TPM Visibility」の設定を変更するには、「Platform Certificate Support」設定が【Disabled】に設定されている必要があります。

システムユーティリティの「TPM Visibility」に関するヘルプ表示(赤字部分)は“プラットフォーム証明書サポートは有効に設定されていません”と表示されますが、正しくは“プラットフォーム証明書サポートは無効に設定されていません”となります。

RBSU > Server Security > Trusted Platform Module Options > Advanced Trusted Platform Module Options > TPM Visibility

RBSU > Server Security > Advanced Security Options > Platform Certificate Support

● iLOイベントログ(IEL)にIPMI Watchdog Timer Timeoutのログが登録される。

システムROM v1. 58 (01/13/2022) が適用されている場合、かつIPMI Watchdog Timerオプションを「Disabled (出荷時の設定)」に設定している場合、iLOイベントログに下記のIPMI Watchdog Timer Timeoutが登録されることがあります。

以下の手順を実施することで本問題が解消します。

iLO IPMI Watchdog Timer Timeout: Action: None, TimerUse: 0x44, TimerActions: 0x00

イベントクラス: 0x23

イベントコード: 0xB3

復旧手順:

以下の復旧手順1、または2のどちらかを実施していただくことで、本問題が解消できます。

復旧手順1

- 1) 装置の電源を切り、電源コードをコンセントから外す。
- 2) 30秒以上経過したのち、電源コードをコンセントに接続する。

復旧手順2

システムユーティリティより、IPMI Watchdog Timerオプションの設定を2回変更します。

- 1) POST中に<F9>キーを押下し、システムユーティリティを起動する。
- 2) System Configuration > BIOS/Platform Configuration(RBSU) > System Options > Server Availability > IPMI Watchdog Timerオプション を「Enabled」に設定する。
- 3) <F12>キーを押下し、設定を保存してシステムを再起動する。
- 4) POST中に<F9>キーを押下し、システムユーティリティを起動する。
- 5) System Configuration > BIOS/Platform Configuration(RBSU) > System Options > Server Availability > IPMI Watchdog Timerオプションを「Disabled」に設定する。
- 6) <F12>キーを押下し、設定を保存してシステム再起動する。

● Boot Order Policy オプションについての注意事項

システム ROM U46 v1.64 (08/11/2022) 以上を使用する場合、「Boot Order Policy」オプション(*)の設定は、「Reset After Failed Boot Attempt」に設定してください。本設定により、Boot Order のリストにある全てのブートデバイスでブートに失敗した（ブートデバイスが初期化に時間がかかるなど）場合、システムの再起動を行います。システムの再起動により、ブート処理を再実行することで OS ブートに成功することがあります。2022 年 12 月より、「Boot Order Policy」オプションの工場出荷時設定は [Retry Boot Order Indefinitely] から [Reset After Failed Boot Attempt] に変更されました。

(*)BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Boot Options > Boot Order Policy

● Intel (R) Xeon (R) Silver 4309Y、またはGold 5315Yプロセッサをご使用のお客様への注意事項

システムROMバージョン2.00 (03/06/2024) 未満が適用されている、かつIntel (R) Xeon (R) Silver 4309Y、またはGold 5315Yプロセッサのいずれかを搭載しているサーバーをご使用の場合、ファンが高速回転することがあります。

システムROMバージョン2.00 (03/06/2024) では、この問題が修正されています。

● UEFI Boot Order Control の注意事項

システム ROM バージョン 2.24 (10/04/2024) の場合、UEFI Boot Order Control メニュー(*1)で新たなブートデバイスの有効化、または無効化の設定や保存ができません。

詳細は以下の Web サイトをご確認ください。

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=3140109992>

ブートデバイスの起動優先順位を変更する際は、UEFI Boot Order メニュー(*2)にて行ってください。

また、UEFI Boot Order メニューまたはUEFI Boot Order Control メニューに移動するたびに、画面下段にある“Changes Pending”文字列の前に赤い◎が表示されます。

必要に応じて F10 キーを押下し、設定の保存を行ってください。

(*1)BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Boot Options > UEFI Boot Order Control

(*2)BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Boot Options > UEFI Boot Order

3) iLO 5の機能に関する注意事項

● iLOの再起動を行う場合の注意事項

サーバー起動からOSの起動完了までの間(POST (Power On Self Test)実行中も含みます)は、iLOの再起動を行わないでください。

また、システムユーティリティの操作途中も、iLOの再起動を行わないでください。

該当タイミングでiLOの再起動を行うと、期待しない動作となる場合があります。

たとえばシステムユーティリティの設定変更途中にiLOの再起動(※)を行うと、直後のシステム再起動処理(Reboot)が正常に動作しない場合や、装置に記録されているSerial Number、Product IDなどの設定情報を消失することがあります。また、POST (Power On Self Test)実行中にiLOの再起動を行うと、iLO Webインターフェース: [Information] - [Overview]ページにおけるUUID、UUID(論理)が不正な表示になる場合があります。不正な表示となった場合は、本体装置の電源をオフ、オンしてください。

＜対象となるiLOの再起動の方法＞

- iLO Webインターフェースなどを利用したネットワーク経由でのiLOの再起動。
- UIDスイッチを使用したiLOの再起動。

※ システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」での設定変更後のiLOの再起動については、本書の「システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」の操作についての注意事項」を参照して操作してください。

● iLOのダウングレードポリシー機能の注意事項


iLOの拡張ライセンスがインストールされている場合、[Security] - [Access Settings] - [Update Service] - [Downgrade Policy]の設定を『Permanently disallow downgrades』に変更しないでください。

『Permanently disallow downgrades』に設定した場合、ファームウェアのダウングレードを行うことができなくなります。

また、『Permanently disallow downgrades』に設定してしまうと、iLOの各種インターフェースや各種ユーティリティから本設定を変更することができません。

さらに、システムユーティリティの[Set to factory defaults]オプションにてiLOを出荷時のデフォルト設定にリセットしようとしても、リセットされず『Permanently disallow downgrades』のままになってしまいます。

● iLOのセキュリティ機能の注意事項

iLO Webインターフェースの[Information] - [Security Dashboard]およびiLO Webインターフェース画面の右上部に  リスクが表示される場合があります。

RBSUの設定やiLOの設定の内容によって、iLOセキュリティの状態がリスク状態(赤色)で表示されますので、お客様のセキュリティポリシーに応じてセキュリティの対処を行ってください。

推奨値などの詳細については、iLO 5ユーザーズガイドを参照してください。

ただし、『Require Host Authentication』設定については、本書内の「iLO Webインターフェースから、[ホスト認証が必要]設定を有効に設定した場合の注意事項」に記載がありますので、ご確認ください。

iLOの負荷の状態により[Information] - [Security Dashboard]の”全体セキュリティステータス”が『リスク』であっても、iLO Webインターフェース画面の右上部の”iLOセキュリティ”アイコンが無色になる場合があります。[Information] - [Security Dashboard]の”全体セキュリティステータス”が現在のセキュリティ状態を示します。

● OS起動時に検出されるネットワークポートやファイバーチャネルポートの接続エラーについて

OS 起動時に Agentless Management Service (AMS/smad) や ESMPRO/ServerAgentService のサービスが開始されたときに、これらのサービスによってネットワークポートやファイバーチャネルの接続エラー(Link Failure)のメッセージが記録される場合があります。

これらのメッセージは装置の再起動中に発生した一時的な接続状態の遷移を iLO によってイベント検知されたことによるものです。これらのメッセージは無視して問題はありません。

● iLO Webインターフェースから、[ホスト認証が必要]設定に係る注意事項

[Security] - [Access Setting] - [iLO]にある[ホスト認証が必要/Require Host Authentication]を『有効』に設定しないでください。

設定を行った場合、次に示す状況が発生します。

- ・アラートビューアに、“Remote Insight/Integrated Lights-Out 認証されないログイン試行検出”のメッセージが多数表示されます。
- ・Starter Pack (Standard Program Package) を適用するとエラーが発生します。

また、次のサービスや機能をご利用頂けません。

- ・エクスプレス通報サービスにおいてハードウェア障害に関する通報
- ・RAID 通報サービス
- ・iLO が収集するハードウェアに関するデバイス情報や設定情報の参照、およびイベントログ採取機能

● iLOの時刻設定について

iLOの時刻設定は、iLO WebインターフェースにてSNTPの設定を行い、ご使用いただくことを推奨します。iLOのSNTPの設定方法については、iLO 5ユーザーズガイドを参照してください。

● iLO WebインターフェースのUUID不正値表示について

POST (Power On Self Test) 実行中にiLOの再起動を行うと、iLO Webインターフェースの[Information] - [Overview] ページのUUID、UUID(論理)の値が稀に不正な表示となることがあります。不正な表示となった場合は、本体装置の電源をオフ、オンしてください。

● ネットワークブリッジ構成時のiLO Webインターフェースのネットワーク情報の表示について

ネットワークをブリッジ設定で構成しご使用の場合、iLO Webインターフェースの[Information] - [Network] - [Physical Network Adapters]に表示される内容がOS上の内容と一致しない場合があります。ブリッジ情報の詳細は、OS上のネットワークアダプタのプロパティにてご確認ください。

● RESTful API ERROR が発生した場合の対処について

POST実行中、稀にRESTful API Errorが発生し、Integrated Management Log (IML)に記録されることがありますが、iLOリセットを行うことで復旧できます。問題が解決しない場合は、保守サービス会社にお問い合わせください。

● EXPRESSBUILDER や Smart Storage Administrator (SSA) が起動できなくなった場合の対処について

iLO 5ファームウェア2.60未満をご使用の場合、POST画面での<F10>キー押下、もしくは、System Utilities > Embedded Applications などからEXPRESSBUILDERを起動しようとした時、稀に起動できないことがあります。また、System Utilities > System Configuration > RAIDコントローラからLaunch Smart Storage Administrator (SSA)を選択し起動しようとした時、稀に起動できないことがあります。その場合は、EXPRESSBUILDERを再インストールしてください。

本製品で使用するEXPRESSBUILDERは、以下のWebサイトに掲載されています。使用しているStarterPackのWebページに詳細が記載されていますので、そちらからご確認ください。

<https://jpn.nec.com/nx7700x/>

([技術サポート情報・ダウンロード] - [ドライバー、ユーティリティ関連の物件] のページのStarterPackの項を参照)

※オンライン版のSmart Storage Administrator (SSA) の動作には影響ありません。

● 物理ドライブのステータス変更時のSNMPトラップ通知のロケーション情報欠損に関する対処について

物理ドライブのステータス変更時のSNMPトラップ通知において、ロケーション情報が欠損する場合があります。ロケーション情報に関しては、iLO5 webインターフェースの[情報]-[インテグレートドマネジメントログ]で同じイベントのロケーション情報をご確認ください。

例:

```
Abnormal, physical drive status change detection, iLO SNMP Trap, mgr_WIN-U6H1HPN1H1Q, uru-rhe183, 192.168.0.57,, 2021/10/01
15:22:57, iLO, 0xc0000be6, "A physical drive status change has been detected. Current status is 3.
(Location: ot 12 Controller: Slot 12)", "If the physical drive status is 'failed(3)',
'predictiveFailure(4)' ,
```

● iLO WebインターフェースのAgentless Management Service(AMS)のステータスについて

iLO Webインターフェースの[System Information] - [Summary] - [Subsystem and Devices] の Agentless Management Service(AMS)のステータスにおいて、不明(または利用不可能)※ と表示された場合、iLOリセットを行ってください。また、その後、10分程度経過した後、以下のAgentless Management Service(AMS)の再起動方法の対象OSを参考に、Agentless Management Service(AMS)を再起動してください。

※ Agentless Management Service(AMS)のステータスが不明(または利用不可能)の状態の場合、iLO Webインターフェースの[System Information] - [Storage] や [Network] の一部の情報が取得できず、正しく表示されません。

< Agentless Management Service(AMS)の再起動方法 >

○ Windowsの場合

Windowsの管理ツール → サービス → “Agentless Management Service” を右クリックし、再起動してください。

○ ESXi7.0/8.0の場合

以下のコマンドを実行します。

```
# /etc/init.d/amsd restart
```

○ Red Hat Enterprise Linux 7.x /8.xの場合

以下のコマンドを実行します。

```
# systemctl restart smad
# systemctl restart amsd
```

● iLO5 Ver2.65以降の注意点

iLOwebインターフェースの「システム情報」>「デバイスインベントリ」で BackPlane (BP) の位置情報が不正になる場合がありますが表示だけの問題で動作に影響はありません。

正常時) Slot=#:Port=#I:Box=# ※#は接続先により番号が変わります。

不正時) Slot=#:Port=?I:Box=? 数字の部分が?と表示されます。
または Box=# Boxのみ表示されます。

● Java IRCのセッションタイムアウト時に表示に関する注意事項について

Java統合リモートコンソール(Java IRC)起動中にリモートコンソールのセッションが切れた場合に、セッションが切れたことを示すポップアップと一緒にセッション切れとは直接関係のない内容のポップアップも表示されます。

Java IRC のセッションが切れた場合には、IRCの下部に以下のメッセージが表示されます。本メッセージが表示されている場合には、表示されているポップアップの内容は無視してください。

■ “セッションはタイムアウトか認識されないアクセスによって閉じられました。”

● iLO Webインターフェイスのストレージ情報に関する注意事項について

iLO5ファームウェア 3.00以降をご使用の場合:

サーバー再起動後に、iLO 5 Webインターフェイスで [システム情報]-[ストレージ]タブをクリックすると、以下のメッセージが表示され、RAIDコントローラや、ドライブ情報等のストレージ情報が表示されない場合があります。

"Failed to retrieve complete storage device information. Refresh the page in a few minutes. "

上記メッセージが[ストレージ]ページに表示された場合、iLOリセットを行ってください。

● サーバー再起動時のFAN高速化に関する注意事項について

iLO5ファームウェアバージョン2.90以降をご使用の場合:

サーバーの再起動を行うと、稀にFANの高速回転やうなり音が7分以上継続する場合があります。

この場合は、再度サーバーの再起動を実施してください。

● 通報に関する注意事項について

iLO5ファームウェアバージョン3.00以降をご使用の場合:

ESMPRO/ServerManagerをご利用されている場合、物理ドライブの状態変化に伴い、アラートビューアにおいて「物理ドライブのステータス変化検出」のアラートが表示されます。

この際、物理ドライブのステータスに応じて、ロケーション情報が以下の二パターンのいずれかで表示されます。

- ① (Location: Slot=(A) :Port=(B) :Box=(C) :Bay=(D) Controller: <NULL>)
- ② (Location: Port=(B) :Box=(C) :Bay=(D) Controller: Slot (A))

A:コントローラの位置(スロット番号)
B:物理ドライブのポート番号
C:物理ドライブのボックス番号
D:物理ドライブのベイ番号

● Intelligent Platform Management Interface (IPMI) の暗号化スイートを使用する場合の注意事項

iLO 5は、IPMIの暗号化スイート17 をサポートしていません。

"ipmitool"ユーティリティバージョン1.8.18以降を使用して、インターフェイスを"lanplus"、暗号化スイートを"17"に指定し、IPMIコマンドを実行した場合、以下のエラーが発生し、IPMIコマンド実行が失敗します。

Error in open session response message : no matching cipher suite

Error: Unable to establish IPMI v2 / RMCP+ session.

4) OSに関する注意事項

● Windows Server OS ご使用時の注意事項

32コア(物理コア)を超えるプロセッサを搭載している場合、Windows Server 2019でシステム情報(Msinfo32.exe)ツールとタスクマネージャーの[パフォーマンス]タブに、プロセッサのソケット数やコア数、L1キャッシュとL2キャッシュのサイズが正しく表示されません。
詳細は、下記のリンクを参照してください。(その際、本機を「Express5800/R120i-2M」とみなしてください。)

Windows Server 2019 サポート情報

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=3140106598>

iLO WebインターフェースまたはSystem Utilitiesを使用して正しいCPU情報を確認してください。

● ESMPRO/ServerManager (Windows版) およびエクスプレス通報サービス(MG)に関する注意事項

本製品の iLO ファームウェアバージョンと、ESMPRO/ServerManager (Windows 版) およびエクスプレス通報サービス(MG)のバージョンの組み合わせによっては、ESMPRO/ServerManager (Windows 版) および iLO 管理機能向けの受信情報設定ファイルのアップデートが必要になる場合があります。

以下をご参照のうえ、アップデートが必要な場合は、最新バージョンにアップデートしてください。

各バージョンの確認方法については、本注意事項の末尾に記載します。

◆ESMPRO/ServerManager (Windows 版) に関する発生現象

iLO ファームウェア	ESMPRO/ ServerManager (Windows 版)	発生現象
Version 2.10 以上	Version 6.25 未満	<ul style="list-style-type: none">構成タブ - サーバー状態 “SNMP 通報設定” が “取得に失敗しました” と表示されるリモート制御タブ - iLO 情報 - IML の表示、IML の保存、IML 情報の取得に失敗し、表示および保存ができないアラートビューア ファームウェアアップデートにともない追加されたハードウェアの障害がアラートビューアに “不明タイプ” のアラートとして表示される
	Version 6.47 未満	<ul style="list-style-type: none">アラートビューア ファームウェアアップデートにともない追加されたハードウェアの障害がアラートビューアに表示されない、もしくは “不明タイプ” のアラートとして表示される

◆ESMPRO/ServerManager Ver. 6 (Windows 版) のアップデート方法

- (1) 以下の Web サイトより最新版の ESMPRO/ServerManager をダウンロードします。
<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010103524>
- (2) 「ESMPRO/ServerManager Ver. 6 インストレーションガイド(Windows 編)」の「2 章 インストール」を参照して ESMPRO/ServerManager をアップデートします。

◆ESMPRO/ServerManager Ver. 7 (Windows 版) へのアップデート方法

- (1) 以下の Web サイトより ESMPRO Platform Management Kit をダウンロードします。
<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010109532>
ESMPRO/ServerManager Ver. 7 は ESMPRO Platform Management Kit に含まれています。
- (2) ESMPRO Platform Management Kit の ESMPRO インストールツールを起動します。
- (3) インストールツール画面の説明書をクリックし、Software Manuals から ESMPRO/ServerManager をクリックします。
- (4) 「ESMPRO/ServerManager Ver. 7.00 インストレーションガイド(Windows 編)」をクリックします。
- (5) 「ESMPRO/ServerManager Ver. 7 インストレーションガイド(Windows 編)」の「2 章 インストール」を参照して ESMPRO/ServerManager を Ver. 6 から Ver. 7 へアップデートします。

- ◆ iLO 管理機能向けの受信情報設定ファイル に関する発生現象
※エクスプレス通報サービス (MG) をご利用されている方が対象です。

iLO ファームウェア	iLO 管理機能向けの 受信情報設定 ファイル	発生現象
Version 2.10 以上	ilo_jp.mtb Version 1.4.0 未満 iml_jp.mtb Version 1.5.0 未満 ※iLO 管理機能向け の受信情報設定 ファイルは2種類 あります。	ファームウェアアップデートにともない追加されたハードウェアの障害を検知することができない。当該障害を通報することができない。 ※受信情報設定ファイルをアップデートした場合であっても、ESMPRO/ServerManager がアップデートされていないときは、上記と同様に追加されたハードウェア障害の検知および通報ができない。

◆ iLO 管理機能向けの受信情報設定ファイルのアップデート方法

- (1) 以下の Web サイトより最新版の受信情報設定ファイル(ilo_jp.mtb、iml_jp.mtd)をダウンロードします。
<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010100096>
ilo_jp.mtb、iml_jp.mtd は MGMTB.zip に包含しています。
- (2) 「エクスプレス通報サービス (MG) インストレーションガイド (Windows 編)」の「3.1.5 受信情報の設定」または「3.2.4 受信情報の設定」を参照して受信情報の設定画面で登録済みの受信情報を削除します。
- (3) (1) でダウンロードした最新版の受信情報設定ファイルを登録します。
「エクスプレス通報サービス (MG) インストレーションガイド (Windows 編)」は以下の Web サイトからダウンロードしてください。
<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010102124>

◆ iLO ファームウェアのバージョン確認方法

- ・ Server Health Summary で確認する方法
サーバー本体の UID ボタンを押下して、サーバーに接続されたコンソールに表示される iLO Firmware のバージョンを確認します (Server Health Summary の詳細は iLO 5 ユーザーズガイド参照)。
- ・ ネットワーク経由で確認する方法
iLO にネットワーク接続可能な場合、ブラウザから iLO にログインして、メニュー「ファームウェア & OS ソフトウェア」から iLO のバージョンを確認します。

◆ ESMPRO/ServerManager (Windows 版) のバージョン確認方法

- (1) ESMPRO/ServerManager にログインします。
- (2) 画面右上の「ESMPRO/ServerManager について」のリンクを選択します。
- (3) 表示される ESMPRO/ServerManager のバージョン情報を確認します。

◆ iLO 管理機能向けの受信情報設定ファイルのバージョン確認方法

「エクスプレス通報サービス (MG) インストレーションガイド (Windows 編)」の「3.1.5 受信情報の設定」または「3.2.4 受信情報の設定」を参照して受信情報の設定画面で「詳細情報」が「iLO SNMP Trap」のバージョンを確認します。

● NE3304-208 を搭載した Windows Server 環境にて記録されるイベントについて

NE3304-208 を搭載した Windows Server 環境にてシステムイベントログに以下のようなイベントが記録される場合がありますが、システム運用上問題はございません。

ソース : icea
イベント ID : 89
レベル : エラー
説明 : Intel (R) Ethernet Network Adapter E810-XXV-2 xxx
問題 : DDP パッケージの読み込み中に不明なエラーが発生しました。セーフモードに切り替えます。
対処 : アダプターを再起動してください。問題が解決しない場合は、
"http://www.intel.com/support/go/network/adapters/home.htm" から
最新のドライバーをダウンロードしてインストールしてください。
※x の値は環境により異なります。

ソース : icea
イベント ID : 91
レベル : エラー
説明 : Intel (R) Ethernet Network Adapter E810-XXV-2 xxx
問題 : DDP パッケージの署名が無効なため、読み込めません。セーフモードに切り替えます。
対処 : "http://www.intel.com/support/go/network/adapters/home.htm" から最新のドライバーをダウンロードしてインストールしてください。
※x の値は環境により異なります。

ソース : icea
イベント ID : 1284
レベル : エラー
説明 : Intel (R) Ethernet Network Adapter E810-XXV-2 xxx
問題 : DDP パッケージのエラー。
考えられる解決策 : 最新のベースドライバーと DDP パッケージにアップデートします。
※x の値は環境により異なります。

● VMware ESXiを使用する場合の注意事項

1. RBSU の「PCIe Hot-Plug Error Control」オプション(*)を「eDPC Firmware Control」に設定しないでください。もし、本設定値で運用した場合、PSoD (Purple Screen Of Death)が発生することがあります。

(*)BIOS/Platform configuration (RBSU) > PCIe Device Configuration > Advanced PCIe Configuration
> PCIe Hot-Plug Error Control

2. ESXi 起動時の VMware vSphere の監視 > ハードウェア > システムセンサー > センサーの表示について。

- (1) 非冗長 FAN 構成において ESXi 起動完了後、下記のセンサーの健全性(vCenter : ステータス)の表示が『警告(黄色)』となる場合がありますが、ハードウェアの故障を示すものではなく運用に影響ありませんので、そのまま運用いただけます。

- Cooling Unit 1 Fans

- (2) ESXi 起動完了後、下記のセンサーの健全性(vCenter : ステータス)の表示が『?』となる場合がありますが、ハードウェアの故障を示すものではなく運用に影響ありませんので、そのまま運用いただけます。

- System Chassis 1 UID

● TPMキットを実装している装置でVMware ESXiを使用する場合の注意事項

NE3315-35 TPM キットが搭載されている場合 TPM Mode (*1)は「TPM 2.0」にて、VMware ESXi をご使用ください。もし、TPM Mode が「TPM 1.2」に設定されている場合、稀に PSOD (Purple Screen of Death)が発生することがあります。

- (*1) 出荷時の初期設定は「TPM 2.0」です。

TPM Mode の確認および設定変更は下記メニューより確認してください。

・ System Utilities > System Configuration > RBSU > Server Security > Trusted Platform Module Options > Current TPM Type (設定確認)
> TPM Mode Switch Operation (設定変更)

● RAID監視通報方式の変更について

VMware ESXi において、NE3303-190/191/201/237/238 RAID コントローラと NE3303-239 OS ブート専用 SSD ボードをご使用されている場合、RAID 監視通報は SNMP Trap による通報に変更になります。

詳細は、下記の Web サイトをご確認ください。

・ NEC サポートポータル

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=3140108419>

● Linux OSを使用する場合の注意事項

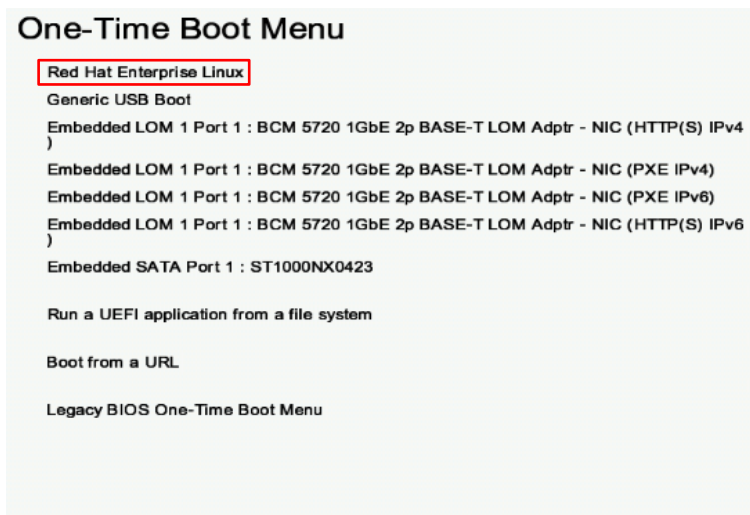
OSが自動的に認識するLOMやオプションNICのデバイス名を使用してください。独自udevルールを追加する際、PCIアドレスを基準にNICデバイス名を変更したり、固定したりする設定は行わないでください。
また、PCIアドレスを含む/dev/disk/by-path/配下のストレージデバイス名は使用しないでください。

PCIアドレスを基準にしたデバイス名を使った運用が必要な場合は、PCIスロットへのカード増設/抜去、および、CPU構成変更を行わないでください。PCIバスのアドレス情報が変化し、PCI接続のデバイス名に影響がでることにより、ネットワークやストレージへのアクセスができなくなり、システムが正常に起動できなくなる場合があります。

● Red Hat Enterprise Linux 7、8.5 以前を使用する場合の注意事項

ワンタイムブートメニューから起動する場合、OSブートマネージャー(例: Red Hat Enterprise Linux)を選択してください。

OSがインストールされたHDDやSSDなどのブートデバイスを選択した場合、Red Screen of Death (RSoD)が発生することがあります。



ワンタイムブートメニュー画面

● NVMe SSD 搭載装置で Red Hat Enterprise Linux 8 をご使用される際の注意事項

「[NE3303-238] RAIDコントローラ (8GB, Tri-mode, 32レーン)」搭載装置において、Red Hat Enterprise Linux 8 をご使用される場合、当該RAIDコントローラ [NE3303-238] 配下のNVMe SSDは、2台以上搭載した上で、RAIDレベル0以外のRAIDレベル構成にしてください。

NVMe SSD単体(1台)構成あるいはRAIDレベル0構成の場合、OS起動できない場合があります。

(ヒント)

- SAS HDD及びSAS SSDは、上記注意事項に該当しません。

● RHELでの“Open could not dequeue a packet”と“Closing, but controller still active”
のメッセージが出力した場合の対処について

RHEL (Red Hat Enterprise Linux) 動作中、OSのシステムログにiLOドライバやAgentless Management Service (AMS) によるsmadプロセスやamsdプロセスのメッセージ出力されることがあります。

本ログが大量かつ継続的に登録される場合は、iLOの再起動を実施してください。
iLOの再起動は、iLO Webインターフェースの[情報]-[診断]ページにて、
[リセット]をクリックすることで実行できます。

■メッセージ例

```
kernel: hpilo 0000:01:00.2: Open could not dequeue a packet
kernel: hpilo 0000:01:00.2: Closing, but controller still active
smad: Failed: ~
smad: Connected ~
```

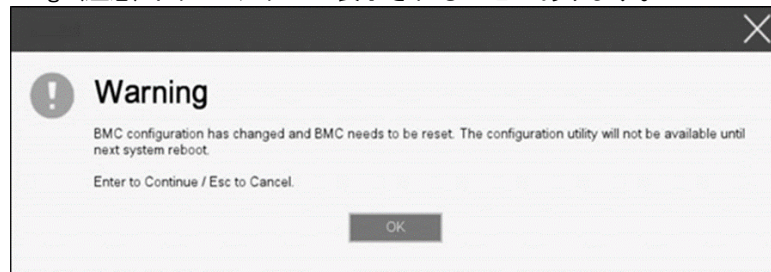

5) 全般の機能に関わる注意事項

● システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」の操作についての注意事項

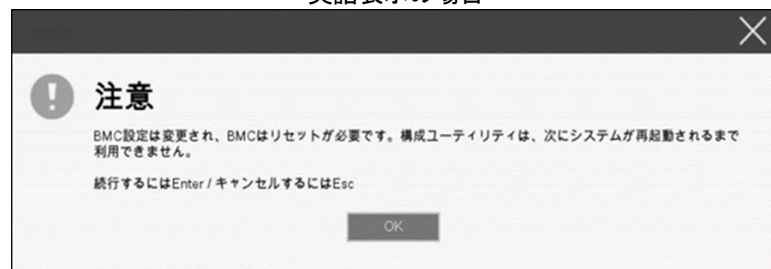
システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」での操作において、以下の(1)のポップアップが表示された場合は(2)以降の手順を厳守してください。

注意事項に従った操作を実施されない場合、「Memory Initialization Start」のメッセージでPOST停止、あるいは、装置に記録されているSerial Number、Product IDの消失が発生する場合があります。

- (1) システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」において設定の変更を行うと、iLOの再起動を行うために、次のWarning（注意）ポップアップが表示されることがあります。

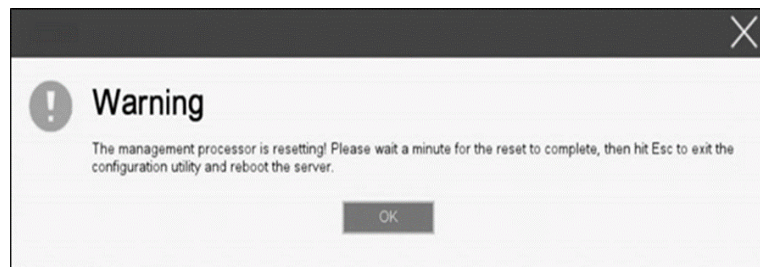


英語表示の場合

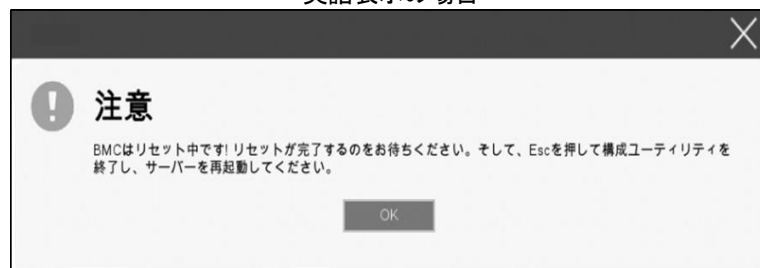


日本語表示の場合

- (2) 「OK」を押して進めます。
- (3) 次のWarning（注意）ポップアップが表示されます。
このWarning（注意）ポップアップが表示されている状態にて、**必ず1分以上お待ちください。**
その間、何も操作しないでください。



英語表示の場合



日本語表示の場合

- (4) 1分以上経過後、装置前面のステータスランプが緑色で点灯していることを確認してください。
※ iLOが再起動中 : ステータスランプが緑色で点滅（毎秒1回）
iLOの再起動が完了し正常動作 : ステータスランプが緑色で点灯
- (5) 再起動の完了が確認できたら、「OK」を押してください。
- (6) <ESC>キーを複数回押してシステムユーティリティの画面に戻ります。
- (7) システムユーティリティの「Reboot the System」を選択して再起動します。

● UPS 接続時の注意事項

UPS をシリアルポートに接続して使用する場合は、以下の設定を無効「Disabled」にしてください。

- (1) System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > System Options > Serial Port Options > BIOS Serial Console and EMS > BIOS Serial Console Port を「Disabled」に設定してください。
- (2) System Configuration > BMC Configuration Utility > Setting Options > Serial CLI Status を「Disabled」に設定してください。

● ライザーカード取り付け時の注意事項

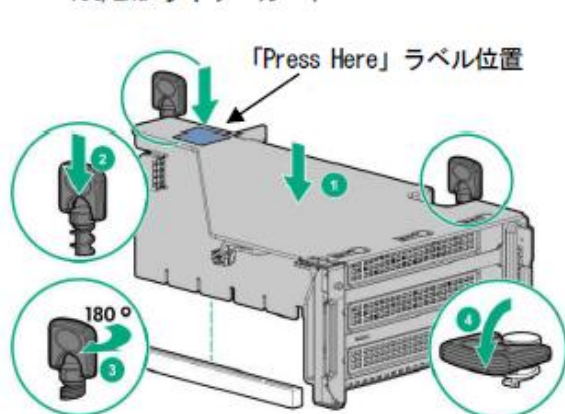
本装置に 1st/2nd/3rd のライザーカードを取り付ける際は、コネクタ勘合不良を回避するため、ライザーカードの端子部分とマザーボード上のスロット部分を合わせ、ライザーケース上面の「Press Here」ラベル部分を必ず押して、確実に差し込んでください。

このことによりコネクタ勘合不良を回避することができます。

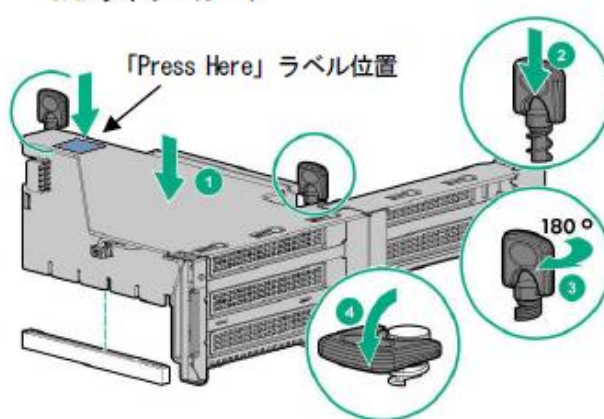
コネクタ勘合不良が起こると、装置前面の Status LED が赤点滅します。

赤点滅した場合には本装置を電源 OFF して AC ケーブルを抜き、ライザーケース上面の「Press Here」ラベル部分を押してください。

1st/2nd ライザーカード



3rd ライザーカード



● EXPRESSBUILDER ヘルプについて

EXPRESSBUILDER のヘルプとメンテナンスガイド（運用編）で記述が異なる場合は、メンテナンスガイド（運用編）の記載を優先してください。

● 冷却設定の変更について

以下のオプションを搭載する場合は、安定稼働のため本製品の冷却ファンの設定を「Increased Cooling」へ変更してください。

既に冷却ファンの設定を「Increased Cooling」または「Maximum Cooling」に設定されている場合は、本対策を行う必要はありません。

対象オプション

- ・ NE3350-551 増設用 300GB HDD
- ・ NE3350-552 増設用 600GB HDD
- ・ NE3303-239 480GB OS ブート専用 SSD ボード (RAID 1)
- ・ NE3354-151 2x2.5 型ドライブケージ (SAS/SATA, リア)
- ・ NE3354-152 2x2.5 型ドライブケージ (U.3 NVMe x4/SAS/SATA)
- ・ NE3354-153 2x2.5 型ドライブケージ (SAS/SATA)

◆設定手順

- (1) POST 中に <F9>キーを押下し、System Utilities を起動します。
- (2) System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Advanced Options > Fan and Thermal Options を選択します。
- (3) Thermal Configuration メニューを 「希望する設定」に変更します。
- (4) <F12>キーを押下し、設定を保存してシステムを再起動します。

※ 冷却ファン設定の変更に伴い、お客様の運用環境や負荷によっては冷却ファンの回転数が上がることがあります。

● NE3303-184/NE3303-E184 SASコントローラ ご使用時の注意事項

NE3303-184/NE3303-E184 SASコントローラを使用する場合、iLO Webインターフェースの[System Information] - [Storage] - [Storage Controller]のStatusが“不明(Unkown)”と表示される場合がありますが動作に影響はありません。

● NE3304-208 10/25GBASE 接続 LOM カード (SFP28/2ch) ご使用時の注意事項

NE3304-208 10/25GBASE接続LOMカード (SFP28/2ch)にてWake On LANを使用しない場合は、必ず以下の手順に従って設定を変更してください。

本設定を行わない場合、Wake On LANが機能する状態となります。

- (1) システムを起動します。
- (2) POST中に<F9>キーを押下し、[システムユーティリティ (System Utilities)]に入ります。
- (3) [システム構成]に入り、Wake On LANを設定するLANコントローラを選択します。
本製品の場合、以下の名称となります。
 - ・ OCP Slot 10 Port 1 : Intel (R) Ethernet Network Adapter E810-XXV-2 for OCP 3.0 - xx:xx:xx:xx:xx:xx
 - ・ OCP Slot 10 Port 2 : Intel (R) Ethernet Network Adapter E810-XXV-2 for OCP 3.0 - xx:xx:xx:xx:xx:xx
- (4) [NIC 設定] - [Wake On LAN]の値を「無効」に設定します。
- (5) [F12:保存して終了]を選択後、[OK]または[はい - 変更の保存]を選択します。
[再起動]ボタンが表示されたら、<Enter>キーを押してシステムを再起動します。

NE3304-208 10/25GBASE 接続LOM カード (SFP28/2ch)にて、Wake On LAN機能を用いて本体装置の起動を行う場合、マジックパケットは本体装置をシャットダウンして、電源がオフの状態を受信するようにしてください。
本体装置が稼働中にマジックパケットを受信した場合、その後本体装置がシャットダウンされ電源がオフに移行した後に、自動的に本体装置の電源がオンされてしまいます。

■ ファームウェア更新に伴う変更点

本製品の搭載ファームウェアの更新に伴い、メニューの一部に変更があります。下記、変更点を記載します。

(1) Boot Optionsメニュー

システムユーティリティから、「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Boot Options」を選択すると、「Boot Options」メニューが表示されます。

追加のオプションについて、次の表を参照してください。

項目	パラメーター	説明
Filter Non-bootable Drives (注1)	[Auto] Enabled Disabled	「Enabled」に設定した場合、システムは起動できない固定ドライブの起動オプションを作成しません。 「Auto」に設定した場合、ブートオプションの数が過剰になるとシステムは、予期しない副作用を避けるために、ブートできない固定ドライブのブートオプションを作成しません。

[]: 出荷時の設定

注1:システムROM Version 2.00以降にて利用できるオプションです。

(2) Power and Performance Options メニュー

システムユーティリティから、「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Power and Performance Options」を選択すると、「Power and Performance Options」メニューが表示されます。

追加のオプションについて、次の表を参照してください。

項目	パラメーター	説明
Energy Performance Preference (注 1)	[Disabled] Enabled	このオプションを使用して、エネルギーパフォーマンス優先を有効または無効にします。
Uncore Frequency Scaling	[Auto] Maximum Minimum Custom (注 2)	本オプションは、プロセッサの内部バス (アンコア) の周波数のスケーリングを制御します。本オプションを「Auto」に設定すると、プロセッサはワークロードに基づいて周波数を動的に変更できます。最大または最小の周波数に強制すると、レイテンシーおよび消費電力の調整ができます。ユーザー入力によって最大周波数と最小周波数を変更するには、「Custom」を選択します。 (最小の設定が最大の設定を超えることはできません)
Maximum Uncore Frequency (注 3)	0-127 [24]	ユーザー入力の最大アンコア周波数 (MHz) 本オプションはUncore Frequency Scaling を「Custom」に設定したときのみ表示されます。
Minimum Uncore Frequency (注 3)	0-127 [24]	ユーザー入力の最小アンコア周波数 (MHz) 本オプションはUncore Frequency Scaling を「Custom」に設定したときのみ表示されます。
Disable Dynamic Loadline Switch (注 3)	Disable DLL Switch [Not Disable DLL Switch]	本オプションを有効または無効にすると、条件による電力やパフォーマンスに影響を与える可能性があります。DLLはP状態の動作に応じてEPBモードを切り替えます。

[]: 出荷時の設定

注1:システムROM Version 1.72以降にて利用できるオプションです。

注2:Uncore Frequency ScalingのパラメーターCustomは、システムROM Version 1.80以降にて利用できます。

注3:システムROM Version 1.80以降にて利用できるオプションです。

NEC



CBZ-050644-001-09

2025年 4月 第10版